

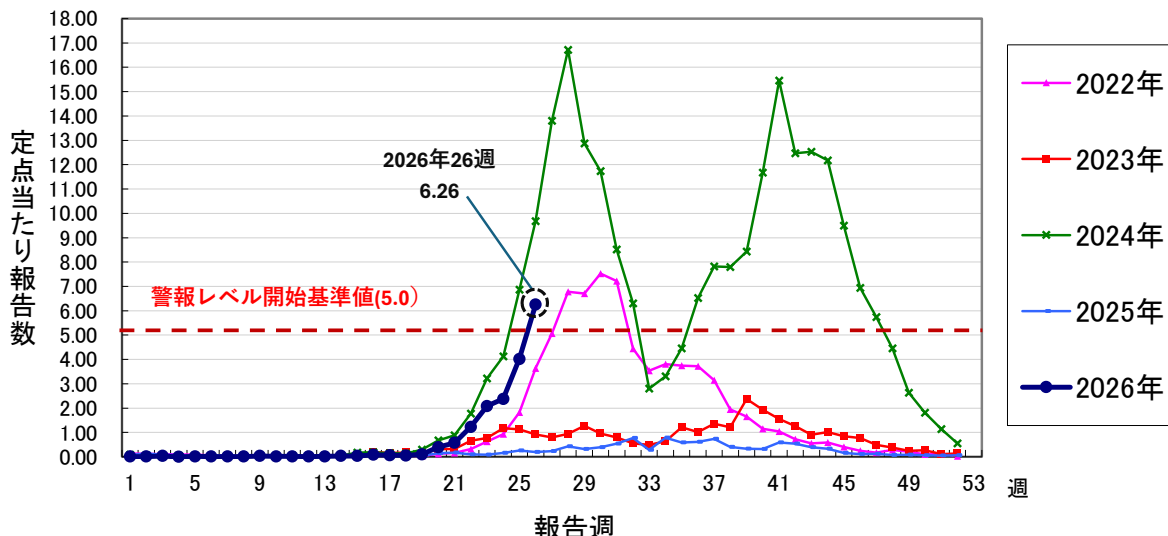
### 【今週の注目疾患】

#### 《手足口病》

2026年第26週における県内の小児科定点医療機関の定点あたり報告数は、8週連続で増加し6.26(人)となり、国の警報レベル(開始基準値:定点あたり報告数5.0)を上回った<sup>1)</sup>(下図)。

現在、県内で大きな流行が発生しており、今後の発生動向に注意が必要である。

図: 2022年から2026年の県内の手足口病の定点あたり報告数(2026年第26週時点)



年齢別では、第26週に報告された患者676例において、1歳が最も多く331例(49%)、次いで、2歳が146例(22%)、0歳が89例(13%)となっていることから、乳幼児がいるご家庭や集団生活をしている保育施設等では、感染を広げないためにも、以下の対策の徹底をお願いします<sup>2)</sup>。

- ・流水と石けんで手洗いをしましょう
- ・タオルの共用を避けましょう
- ・おむつ交換後は排泄物を適切に処理しましょう

手足口病は、口の中や、手足に水疱を伴う複数の発しんが出る感染症である。コクサッキーウイルスA16(CA16)、A6(CA6)、A10(CA10)、エンテロウイルス71(EV71)などを病原体とする<sup>3)</sup>。

潜伏期間は、3日から5日程度である。臨床症状は、口の中、手のひら、足底や足の甲等に2mmから3mmの水疱を伴う複数の発しんが出る。発熱は38度以下のことが多い。多くの場合、3日から7日程度で自然に治るが、まれに髄膜炎、小脳失調症、脳炎といった中枢神経系の合併症のほか、心筋炎、神経原性肺水腫、急性弛緩性麻痺等、重篤な合併症を伴うことがある<sup>4)</sup>。

感染経路は、飛沫感染、接触感染、糞口感染（便と一緒に排泄されたウイルスが口に入って感染すること）が知られている。特異的な治療法や国内で承認されたワクチンはない。治った後も比較的長い期間、便の中にウイルスが排泄され、また、感染しても発病しないままウイルスを排泄している場合もあることから、日頃からのしっかりと手洗い等の感染予防が重要となる<sup>4)</sup>。

■参考・引用

1)千葉県健康福祉部健康福祉政策課：手足口病の流行について（令和8年7月1日）

<https://www.pref.chiba.lg.jp/kenfuku/press/2026/handfootmouth-disease.html>

2)厚生労働省：手足口病 感染症対策チラシ

<https://www.mhlw.go.jp/content/10900000/001281495.pdf>

3)国立健康危機管理研究機構：手足口病

<https://id-info.jihs.go.jp/infectious-diseases/hand-foot-mouth-disease/index.html>

4)厚生労働省：手足口病

<https://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou19/hfmd.html>